# 50年間の活動



第4代目バナー



第2代目バナー

## クラブバナーの変遷

今回、クラブ創立50周年を記念して、新しいクラブバナーが作成されました。

バナー作成の経緯は記念式典での説明(14P参照)をご覧ください。 このバナーが4代目になります。それまでのバナーの変遷を振り 返ります。

#### 第1代目バナー

最初のバナーは、創立時から数年使用されたもので、天狗の面が デザインされたもののようです。現在はひとつも残っておらず、 写真も無いため詳細は不明です。創立2年目に入会した橋本会 員によると、かすかに覚えているそうですが、枚数も少なく数 年で無くなったということでした。

#### 第2代目バナー

このバナーは、昭和37年頃から昭和39年まで使用されました。日の丸とロータリーマークのデザインです。

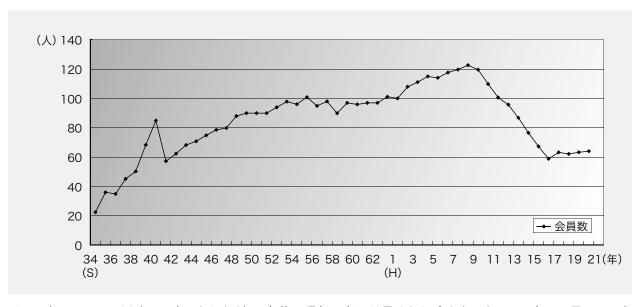


第3代目バナー

#### 第3代目バナー

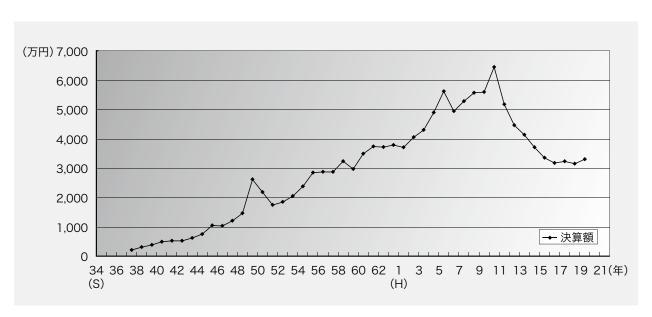
このバナーは昭和39年に、図案デザイナーの沢周三さんによりデザインされたものです。発展しつつある八王子にマッチした新しい感覚を盛り込んだもので、「ロータリーマーク」と「HACHIOJI」を平和と知性で象徴されるBlueとGreenで力強く結びつけてできたデザインということです。

このバナーが、約45年間使われてきました。



チャーターメンバー22人でスタートしたが、7年後の昭和41年には早くも85名となった。この年八王子西ロータリークラブが設立され、八王子ロータリークラブから31名の会員が移籍することとなり、そのため昭和42年には57名に減少。その後は再び順調に会員数を増やし、平成8年の右田年度初めには最多の123名の会員となった。その後は社会情勢の変化により会員数減少が続き、特に金融関係の支店長がほとんど退会するなどしたため、毎年10人近い減少となりました。平成16年重久年度末には59名にまで減りましたが、次年度の天野年度から再び少しずつ増加し始め平成21年4月には64名となっています。(会員数は原則として各年度当初)

## 50年間の会計の変化



年会費は昭和39年は3万6千円、昭和55年には20万円、平成19年には32万円と50年間で10倍近くになっています。それに伴って年度の決算額も200万円程度から最盛期は6400万円となりました。現在は、会員数の減少もあり約3000万円程度となっています。(一部の記念事業などの金額も含みます。)

## 会場監督の50年~例会場の変遷~

八王子RCの例会は、当初より毎週木曜日12:30から13:30を定刻として開催されてきました。ただし例会場は時代とともに移動してきました。

#### 第1次例会場

創立総会は昭和34年(1959)5月8日に八日町の三菱銀行八王子 支店3階ホールで開かれました。それ以降約3年の間このホールが 例会場となりました。

#### 第2次例会場

その後昭和37年(1962)1月4日の例会からその年の暮れの12月14日例会まで、約1年間の間、本町の禅東院にあった禅東院八王子ビル(現在取り壊されています)のホールに移動しています。食事についての注文が多かったので、八王子ビル内の中華料理店が担当して問題を解決させようという理由のようです。ここが第2次例会場です。



三菱銀行八王子支店

### 第3次例会場

しかし会員数が30名くらいから次第に増加し、メーキャップ出席者も増えてきて、この会場では狭くなってしまい再び元の三菱銀行八王子支店3階ホールにもどり、その後3年間の間使用しています。ここが第3次例会場です。移動した時の会長は市来会長でした。

#### 第4次例会場

昭和40年(1965)の暮れに待望の八王子商工会議所ビルが落成して、例会場移転の話が当然話題になりましたが、色々な都合で昭和41年(1966)7月7日の新年度初例会から大横町の商工会議所4階ホールに移りました。中村会長の時で、これが第4次例会場です。商工会議所のホールは、それから22年の長期にわたり使用されてきました。



八王子商工会議所ビル



エルシィ八王子



京王プラザホテル 八王子

#### 第5次例会場

その後昭和63年(1988)1月28日の臨時総会で元横山町のFAMという建物の8階に例会場を移すことに決定し3月31日の例会から使用しています。(現在FAMは取り壊されマンションになっています。)土屋会長の時で、これが第5次例会場です。八王子RCが商工会議所から自立するということが大きな目的でした。その為、事務局も創立以来お世話になっていた商工会議所から独立し、FAM 1階に事務所をかまえ、事務局員も商工会議所の職員から専属の職員へと変わっています。この頃から会員自身でのクラブ運営が行われるようになり、週報なども自分達で作るようになりました。

#### 第6次例会場

その後平成3年(1991)にFAMの例会場が使用できなくなり、平成3年(1991)6月6日から例会場は八日町のエルシィ八王子に移動しました。河西会長の時で、これが第6次例会場です。ここは、八王子西RC、八王子南RCも例会場としているため、一時期3クラブが例会場として使用していました。事務局もエルシィの地下に移動しました。

#### 第7次例会場

やがて平成6年(1994)に初の都市型ホテルとして京王プラザホテル八王子が駅前にオープンすることになりました。今回はホテル開業前から平谷年度に十分準備をされ、ホテルのオープンとほぼ同時の平成6年(1994)9月1日から京王プラザホテル八王子に例会場と事務局を移動しました。清水会長の時で、ここが第

7次の例会場で現在に至っています。すでに15年近くになりますがやっと落ち着ける場所にたどり着いたというところでしょうか。創立当時の例会ではお弁当をくばり、お茶も自分たちで入れる形でしたが、今は料理の質もサービスもすばらしく、快適な例会場でロータリーライフが過ごせ大変幸せだと思います。

創立当初の様子は10年誌「八王子RC例会場の変遷」鈴木龍二を参照しています。(土屋)



## 親睦委員会の50年

ロータリークラブが奉仕活動をする上で、親睦が果たす役割はいうまでもなく大変大きな比重を占めていますが、その中でも親睦旅行は大きな柱として行なわれ、その時代とともに内容も変わっていきました。

はじめは懇親を目的とした温泉地への一泊旅行から始まりました。

そして観光地への2泊3日の旅へと変り。昭和60年代は地方文化の華、「お祭り」の見学、そして平成に入ると自然や環境に目を向けた旅行に変化して来ました。

数多く行なわれた旅行の中では、面白いエピソードが生まれたり、普段ではみられない会員の個性が出たり、またご夫婦で参加した会員のちょっとした仕草の中に、うるわしい夫婦愛を感じたこともありました。

それぞれの旅行の一つ一つがロータリーの親睦旅行でなければ味わえない、素晴らしい思い出をつくりました。



千葉鴨川へ (1972)



札幌雪祭り (1986)



立山黒部アルペンルート (1987)



京都旅行(1988)

<i>t</i> −	16/- u		出典	
年度	旅行先	記念誌	会 報	週報
1966 (昭和41年)	熱海 大観荘(1泊)	20周年	-	_
1967 (昭和42年)	箱根湯本 岡田(1泊)	20周年	_	-
1968 (昭和43年)	熱海 大観荘(1泊)	20周年	_	_
1969 (昭和44年)	伊豆 吉奈温泉東府屋(1泊)、湯河原 天野屋(1泊)	20周年	_	_
1970 (昭和45年)	岐阜 長良川温泉 岐阜GH(1泊)、箱根湯本 吉池(1泊)	20周年	-	_
1971 (昭和46年)	信州 別所温泉 花屋(1泊)、京都 炭屋旅館(1泊)	20周年	_	_
1972 (昭和47年)	箱根 奈良屋(1泊)、千葉 鴨川GH(1泊)	20周年	_	_
1973 (昭和48年)	熱海 大観荘(1泊)、網代 網代温泉H(1泊)	20周年	23号	-
1974 (昭和49年)	石和温泉 糸柳(1泊)	20周年	24号	-
1976 (昭和51年)	信州蓼科温泉 蓼科GH(1泊)	20周年	27号	_
1977 (昭和52年)	伊豆山 桃李境(1泊)	20周年	28号	-
1978 (昭和53年)	奥湯河原 加満田旅館(1泊)	20周年	29号	_
1980 (昭和55年)	事情により中止	_	-	80-17
1982 (昭和57年)	箱根湯本 南風荘(1泊)	30周年	_	_
1983 (昭和58年)	鎌倉	_	-	82-37
1984 (昭和59年)	四国旅行 四国土佐旅行(松山、高知)(1泊)	30周年	_	
1985 (昭和60年)	筑波·科学万博見学	_	_	_
1986 (昭和61年)	札幌雪祭り(2泊)	30周年	_	
1986 (昭和61年)	長崎おくんち祭り・雲仙見学(2泊)	30周年	_	86-14
1987 (昭和62年)	飛騨、高山祭り、立山黒部アルペンルート(2泊)	30周年	_	87-15
1988 (昭和63年)	錦の京都への旅	40周年	_	88-17
1989 (平成1年)	萩・津和野 山陰の旅	40周年	_	
1990 (平成2年)	阿波踊りと京都の旅	40周年	_	90-7
1991 (平成3年)	小諸、上高地、信州美術館めぐりの旅	40周年	_	91-15
1992 (平成4年)	越中おわら風の盆と能登の旅	40周年	_	92-9
1993 (平成5年)	南紀・川湯温泉・熊野・伊勢方面の旅	40周年	_	
1994 (平成6年)	奈良・飛鳥の旅	40周年	_	94-13
1995 (平成7年)	函館・奥入瀬の旅	40周年	_	
1996 (平成8年)	出雲・松江の旅	40周年	_	-
1997 (平成9年)	屋久島・鹿児島の旅	40周年	_	97-18
1998 (平成10年)	吉備路と瀬戸内の旅	_	-	98-16
1999 (平成11年)	紅葉の磐梯高原とグルメの旅	_	_	99-16
2000 (平成12年)	阿蘇、由布院、国東半島の旅	_	-	00-11
2001 (平成13年)	四国金比羅宮と大阪ユニバーサルスタジオ	_	_	01-18
2002 (平成14年)	石垣島、西表島の旅	_	-	02-17
2003 (平成15年)	陸中海岸、遠野、平泉の旅	_	_	03-18
2004 (平成16年)	醍醐寺、京都の雅を楽しむ旅	_	-	04-13
2005 (平成17年)	湯布院、黒川温泉、高千穂峡の旅	_	_	05-15
2006 (平成18年)	鎮江、蘇州、上海の旅	_	_	06-18
2007 (平成19年)	世界遺産の旅	_	_	_

## 職業奉仕の50年

職業奉仕は、ロータリークラブを特徴付ける重要な観念であり、ロータリー活動の根幹となるものと言われ ます。ただ、実際どのような活動をしていけばいいのかはなかなかわかりにくく、東京八王子ロータリークラ ブでも、設立当時から色々な議論がおこなわれたようです。設立当時は、商工会議所と繋がりが強かったせい か、永年勤続者の表彰などを行っていましたが、その後そういった事業に疑問の声が上がり、行われなくなっ てきました。最近は、環境への配慮や社会貢献にすぐれた職場を見学する見学会が主な事業として行われて います。模範的な企業を見学することで、各自の職業人としてのモラルを向上し、職業を通して社会に貢献し ていくことがこれからもロータリアンとしてのもっとも大事な使命だと考えます。

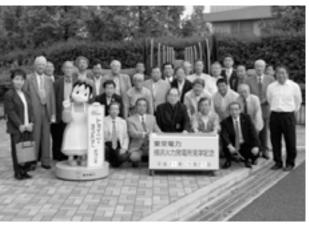




東電横須賀火力発電所見学(1966)



柏崎刈羽原発見学(1997)



東電横浜火力発電所見学(2008)

### ■職業奉仕イベント

年度	内 容	出典			
<b>一</b>	ry A	記念誌	会 報	週報	
1964 (昭和39年)	新聞販売店店員永年勤続者の表彰	10周年	_	_	
1967 (昭和42年)	事業所で働く身障者を表彰	20周年	_	_	
1973 (昭和48年)	フォーラムで討議、従業員表彰は活動として疑問の意見あり	-	23号	_	
1976 (昭和51年)	病院、医院で働く15年以上の永年勤続者表彰	25号	_		
1977 (昭和52年)	F) 市民と医師の懇談会実施 20周年 27号				
1999 (平成11年)	社訓を通して職業奉仕の理念を知る	99			

## ■職場見学会

年度	見学先		出典		
十	兄子兀 	記念誌	会 報	週報	
1966 (昭和41年)	東京電力横須賀火力発電所見学	20周年	-	_	
1981 (昭和56年)	日野自動車見学	30周年	_	80-41	
1982 (昭和57年)	住友海上火災保険コンピューター見学	30周年	-	_	
1983 (昭和58年)	資生堂大船工場見学	30周年	_	_	
1986 (昭和61年)	東京電力横浜火力発電所見学	30周年	-	_	
1990 (平成 2 年)	東京工科大学見学	_	_	90-28	
1990 (平成 2 年)	柏崎刈羽原発見学と弥彦温泉	40周年	_	90-32	
1993 (平成5年)	三菱重工、トヨタ自動車工場見学	40周年	_	92-37	
1994 (平成 6 年)	キャノン取手工場見学	40周年	-	93-32	
1994 (平成 6 年)	ライオン油脂見学	40周年	_	_	
1996 (平成8年)	新日鉄君津工場見学	40周年	_	_	
1997 (平成9年)	柏崎刈羽原発見学	40周年	_	96-38	
1997 (平成 9 年)	日本ビクター横須賀工場見学	40周年	-	97-15	
1998 (平成10年)	警視庁見学	_	_	98-8	
1999 (平成11年)	旭化成酒類工場と米山記念館見学	_	-	99-26	
2000 (平成12年)	雪印横浜工場見学とみなとみらい散策	_	-	00-36	
<b>2001</b> (平成13年)	松下幸之助メモリアルホールと大徳寺見学	_	_	報01	
2002 (平成14年)	コクヨショールーム、六本木ヒルズ見学	_	_	02-41	
2003 (平成15年)	サントリー山崎工場見学	_	_	_	
2004 (平成16年)	スズキ自動車工場見学と愛・地球博見学	_	_	04-32	
2005 (平成17年)	夢の島環境施設見学	_	_	05-30	
2006 (平成18年)	日本銀行・貨幣博物館見学と屋形船	_	_	06-33	
2007 (平成19年)	花王化粧品工場見学と江戸情緒溢れる幇間芸				

## 社会奉仕の50年

社会奉仕活動は、地域に対しての寄付や援助など、創立当初から熱心に行われてきました。昭和40年の「市内各交番に炭を配る」などは45年前の社会の様子が伺えます。その後、個別の施設や団体への寄付とともに、献血や環境保全のための植樹など社会全体への奉仕活動も増えてきています。最近では、視覚障害者の為の点字地図の作成なども行い感謝されました。ただ、当ロータリークラブの特徴として、他の団体の行う有意義な活動への支援が主となっています。積極的な社会奉仕活動への関わりが少ないとも言えます。これらは、この50周年記念誌の「パスト会長座談会」などでも指摘されていますが、今後の当ロータリークラブの課題といえるのではないでしょうか。



大和田橋袂に標語看板設置 2009年に新しく書き換えられ ました。



点字地図の作成(1998)

交通災害防止事業として国道 16号線、稲荷坂先に安全標語を 書いた鉄骨の大看板を建て安 全運転の呼びかけを行う。 尚、数年に1度標語の書替えも 行っている



いちょう祭り出店(2005)



知床の自然保護運動に参加(2007)

### ■主な社会奉仕事業

<b>左</b>	<b>東</b> 樂中次	出典		
年度	事業内容	記念誌	会 報	週報
1961 (昭和36年)	小学校の特殊学級にトランジスタ柱時計3個寄贈	10周年	-	_
1961 (昭和36年)	老人ホームから104人を招待して敬老会開催	10周年 –		_
1962 (昭和37年)	青年の家にスリッパ100足寄付	10周年	_	_
1962 (昭和37年)	交通安全プレート300枚八王子警察に寄付	10周年	_	_
1962 (昭和37年)	市民会館に入り口表示灯寄付	10周年	_	_
1964 (昭和39年)	オリンピック村にお人形寄付	10周年	_	_
1964 (昭和39年)	オリンピック競技上周辺に街灯3基寄付	10周年	_	_
1965 (昭和40年)	市内各交番に炭を配る	10周年	_	_
1965 (昭和40年)	中央高速インター遺跡発掘に援助金寄付	10周年	_	_
1965 (昭和40年)	武蔵野児童学園にパジャマ寄贈	10周年	_	_
1968 (昭和43年)	八王子警察署に白バイ3台寄贈(八王子西RCと合同)	10周年	_	_
1968 (昭和43年)	老人ホームへ扇風機2台寄贈	10周年	_	_
1969 (昭和44年)	消防署にホンダスーパーカブ寄贈	20周年	_	-
1970 (昭和45年)	献血PR、交番に赤色回転灯の寄付、交通事故防止キャンペーンに協力	20周年	_	_
1972 (昭和47年)	交通遺児、寝たきり老人の実態調査	20周年	22号	_
1972 (昭和47年)	八王子消防署に火災予防査察用乗用車1台寄贈	20周年	22号	_
1973 (昭和48年)	市内の福祉養護施設を調査し、4福祉施設に自転車やテレビを寄贈	20周年	23号	_
1974 (昭和49年)	浅川清掃運動に協力、大和田橋袂に標語看板設置	20周年	24号	_
1975 (昭和50年)	小学校42校にドッチボール寄贈	_	25号	_
1976 (昭和51年)	市民会館正面につつじの花壇と記念碑 公孫樹25本寄付	20周年	27号	95-19
1976 (昭和51年)	交通災害防止事業として、国道16号線稲荷坂先に標語看板設置	20周年	27号	95-20
1977 (昭和52年)	八王子駅に傘を200本寄贈	-	28号	_
1977 (昭和52年)	大学セミナーハウスにバーベキューセット寄贈	_	28号	_
1977 (昭和52年)	八王子警察署へ暖房機器を寄贈	_	28号	_
1978 (昭和53年)	八王子警察署に交通事故数表示看板寄贈	20周年	29号	-
1983 (昭和58年)	交通指導信号機寄贈	30周年	_	_
1984 (昭和59年)	八王子赤十字血液センターに採血用ドナーチェアー2台寄贈(25周年記念)	30周年	_	-
1989 (平成 1 年)	クリーングリーンキャンペーン	40周年	_	_
1990 (平成 2 年)	富士森公園に桜の若木十本植樹、駅前で苗木と花の種ゴミのポリ容器配布	40周年	_	_
1991 (平成3年)	富士森公園に桜の若木8本植樹	_	_	91-41
1991 (平成3年)	駅前でゴミ容器1000個と花の種子1000袋配布	40周年	_	91-34
1993 (平成 5 年)	富士森公園に枝垂れ桜植樹	_	_	94-33
1995 (平成7年)	阪神大震災義援金募集	40周年	_	-
1996 (平成8年)	東京都薬用植物園見学	40周年	_	96-40
1996 (平成8年)	視覚障害者のための点字地図の作成	40周年	_	-
1996 (平成8年)	いちょう祭りで、麻薬覚醒剤等乱用防止キャンペーン参加	40周年	_	_
1998 (平成10年)	視覚障害者のための点字防災マップの作成	40周年	_	97-30
2001 (平成13年)	三宅島噴火避難の人々への防寒用はんてん等の寄付	_	_	_
2004 (平成16年)	いちょう祭りに出店 ポリオ撲滅キャンペーンに協力	-	-	-
2005 (平成17年)	いちょう祭りに出店 チャリティー菓子の販売	_	_	_
2006 (平成18年)	いちょう祭りに出店 東南アジアの民芸品をチャリティー販売	-	-	-
2007 (平成19年)	世界自然遺産「知床」の自然保護運動に参加	_	_	_

## 国際奉仕・世界社会奉仕の50年

国際奉仕活動は、設立当時から熱心に行われていました。特に設立2年目に東京でRI国際大会が行われ、当 時はクラブ数も少なかったのでそのコホストとして海外メンバーを接待するなどしました。世界の人々と友 好を深める為、留学生や研修生との交流も熱心に行っています。近年は国際大会へ積極的に参加しています。 昭和47年頃から、世界社会奉仕として世界の恵まれない地域へ積極的に奉仕活動をするようになりまし

た。これらの活動は、地区や海外のクラブとの共同事業も多く高い評価を受けています。



日本・ミャンマー友好の森にて(1999)



友好の森で記念植樹 (1999)

#### ■国際奉仕事業

年度	事業内容		出典	
1 12	***!	記念誌	会 報	週報
1961 (昭和36年)	RI東京大会で東中野日本閣にて58人の海外メンバー夫妻をホームホスピタリティー	10周年	_	_
1962 (昭和37年)	市内の児童絵画553点をフロリダ州、イリノイ州、東パキスタンへ送る	20周年	-	_
1962 (昭和37年)	フロリダ州、マサチューセッツ州の児童の絵画、手芸品162点を展示	20周年	-	_
1965 (昭和40年)	ICUの留学生15名を高尾山薬王院へ招き親善交歓会	20周年	-	_
1967 (昭和42年)	日米親善ゴルフ会	10周年	_	_
1968 (昭和43年)	国際児童絵画交換(シカゴと交換)	10周年	_	_
1968 (昭和43年)	RI60回大会(ハワイ)に参加	10周年	-	_
1969 (昭和44年)	外人学生の織物工場見学	20周年	_	_
1970 (昭和45年)	大学セミナーハウスで国際情勢理解の講演会実施	20周年	-	_
1971 (昭和46年)	世界の国旗展覧会開催	20周年	21号	_
1972 (昭和47年)	RI国際大会(シドニー)に参加	_	21号	-
1972 (昭和47年)	国際青少年交換学生を励ます会実施	20周年	22号	_
1974 (昭和49年)	大学セミナーハウスで留学生と交換会	20周年	24号	_
1977 (昭和52年)	国際協力事業団八王子研修センターの研修生14人を織物産業研修、交歓会	20周年	28号	_
1977 (昭和52年)	国際大会に参加した14人の外人ロータリアンをホームホスピタリティー	20周年	28号	_
1978 (昭和53年)	大学セミナーハウスで国際情勢理解の講演会実施	20周年	29号	_
1981 (昭和56年)	年忘れ家族親睦会に国際研修センターの研修生を招待	30周年	-	81-22
1994 (平成 6 年)	RI国際大会(台北)に参加	40周年	-	_
1995 (平成7年)	RI国際大会(ニース)に参加(14名)	_	_	94-42
1996 (平成8年)	RI国際大会(カルガリー)に参加	40周年	_	96-3
1996 (平成8年)	RIアジア地域大会(バンコク)に参加(11名)	_	_	96-17
1997 (平成9年)	RI国際大会(グラスゴー)に参加(21名)	40周年	_	97-4
1999 (平成11年)	RI国際大会(シンガポール)に参加(19名)	_	_	98-44

年度	事業内容		出典	
<b>平</b>			会 報	週報
1999 (平成11年)	日本・ミャンマー友好の森 記念植樹	-	-	98-44
2001 (平成13年)	RI国際大会(バルセロナ)に参加		_	01-42
2003 (平成15年)	RI国際大会(大阪)に参加		_	_
2005 (平成17年)	RI国際大会(コペンハーゲン)に参加	-	_	_

#### ■世界社会奉仕事業

<b>左</b>	事業内容		出典		
年度			会 報	週報	
1972 (昭和47年)	外国の地方病院にレントゲン寄贈(分区)	_	22号	_	
1974 (昭和49年)	フィリピンの病院に酸素テント寄贈(分区)	_	24号	_	
1975 (昭和50年)	フィリピンの公立図書館に図書を寄贈(分区)	_	25号	_	
1976 (昭和51年)	バングラデシュの職業訓練センターへ工業用ミシン4台ニッティングマシ	_	27号	_	
	ン2台寄贈(分区)				
1977 (昭和52年)	台湾高雄の図書館に図書購入資金寄贈(分区)	_	28号	_	
1978 (昭和53年)	韓国蜜陽道庁前の時計塔建立に参加(分区)	_	29号	_	
1991 (平成3年)	オーストラリアの「生存をかけた植樹プログラム」に協賛	40周年	_	91-28	
1993 (平成5年)	オーストラリアの「生存をかけた植樹プログラム」式典参加	40周年	_	_	
1998 (平成10年)	カラ西アフリカ農林自立協力会の運動を支援	40周年	_	97-28	
2000 (平成12年)	レバノン、トリポリのリハビリセンターに機器寄贈(同額補助)	_	_	00-26	
2001 (平成13年)	タイ国チェンマイ地区パーファン給水設備建設事業に資金援助(同額補助)	_	_	報01	
2002 (平成14年)	放置自転車のタイへの供与プロジェクトに参加(バンコクスリオンRCと共同)	_	_	02-38	

#### 放置自転車タイ国供与事業 概要

バンコクスリオンロータリークラブ(RI第3350地区)と東京八王子ロータリークラブ(RI第2750地区)及び東京江北ロータリークラブ(RI第2580地区)が協力し、日本の放置自転車を3年間に渡り合計約15,000台、タイの恵まれない中学生、高校生の通学用に寄贈するプロジェクトを企画した。

平成14年3月13日に日本橋の財団法人自転車駐車場整備センターおいて、上記3クラブと、財団法人自転車駐車場整備センターとの間で放置自転車海外供与覚書調印式が行われた。

これにより、放置自転車をバンコクの港まで搬送するまでの費用はすべて財団法人自転車駐車場整備セン

ターで負担し、通関以降の、組み立て、各地域への移送、 生徒の選考と贈呈式の挙行などはロータリークラブで 行うこととなった。

自転車の寄贈は、コンテナーの関係で、約460台を1回分として約30数回行われる予定。

各回ごとに、日本とタイのさまざまなロータリークラブが協力し、タイの各県を通して、田舎の中学校、高校の恵まれない生徒の通学用に利用される。

平成15年3月28日にタイのシンブリ県でおこなわれた贈呈式には八王子RCのほか、シンブリ県知事、教育長、RI第3350地区ガバナー、バンコクトンブリロータリークラブ元会長らも参加し、460人の子供達を交え盛大に行われた。



寄贈された自転車



東京八王子RCのシール



子供たちが通学に利用

## 新世代の50年

ロータリーのプログラムの新世代に関する活動は 数種類ありますが、中でも各クラブにおいてもっと も話題になるのは青少年交換プログラムの受入活 動ではないかと思います。東京八王子ロータリーク ラブでは50周年の間に下記の通り7人の学生受入れ と10人の送り出しを行っています。どの交換学生へ も各会員それぞれの思いがあることでしょうが、こ とに7人の受入学生には多くの思い出があると思い ます。その理由は受け入れ学生の場合はホストした 会員が学生と一つ屋根の下で寝食を共にし、自分の 家族として接するところにあると思います。しかし、 考えてみますと、八王子クラブで送り出した10人の



シド・ジャリド君の歓迎会(下列左2人目)

学生も派遣先の国のロータリークラブにとっては受け入れ学生であります。この交換プログラムはロータリアンの信頼で成り立っていることがわかると思います。若い学生のことゆえ成果はすぐには出ませんが、日本にあこがれて来日し、一年間生活する多感な年代の青少年に楽しい思い出、感動をたくさんつくってもらい、日本に対する理解を深めて帰国してもらいたいと思います。

真上 俊樹

#### ■交換学生受入・・・7人

氏 名	国 籍	性 別	留学期間
ロス・J・ローブリー	オーストラリア	男	1979.1~1980.1
ウィンディー・G・ウインスロー	アメリカ	女	1986.1~1987.1
セルボビック・ジェニファー	カナダ	女	1989.8~1990.8
	ブラジル	男	1992.1~1993.1
ジェニファー・アーキュラス	オーストラリア	女	1997.1~1998.1
ジョン・パウロ・メンデス	ブラジル	男	2000.7~2001.3
シド・ジャリド	タイ	男	2003.7~2004.8

#### ■交換学生送出・・・10人

氏 名	学校名	留学先	性 別	留学期間
桜田恵理子	八王子実践高校	オーストラリア	女	1987.3~1988.3
清宮 典子	吉祥女子高校	アメリカ・ハワイ	女	1988.3~1989.3
磯井理江子	八王子実践高校	オーストラリア	女	1991.3~1992.3
岡本 由佳	八王子実践高校	ブラジル	女	1992.3~1993.3
須藤 佳苗	狛江高校	デンマーク	女	1993.4~1994.3
青山 剛史	八王子高校	インド	男	1996.8~1997.6
加地恵理子	恵泉女学園高校	インド	女	1999.8~2000.7
白石 涼子	狛江高校	ドイツ	女	2000.3~2001.3
白石 祐子	狛江高校	タイ	女	2000.4~2001.3
真上 藍	学習院女子高等科	タイ	女	2001.4~2002.3

### 新世代からの声

#### 青山 剛史さん

インドに留学(1996.8~1997.6)



八王子ロータリークラブの 皆様、ご無沙汰しております。 1996~1997年に2750地 区よりインドに派遣させてい ただきました青山剛史です。

当時インドというと2750地 区ではまだ誰も派遣されてお らず、ローテックスの情報など

なくどう生活してよいかわからない未開拓の地でした。前例が無いことや生活面での不安などから正直行くか行くまいか悩みました。

しかしロータリーの派遣留学というのは、「ごく普通の留学」をするのが目的ではないと教えられ、限られた期間の中で自分にしかできない「留学」をして今後インドに派遣される後輩たちにバトンをしっかりわたせる開拓者になろうと思い、行く決心をしました。

現地に降り立って最初の印象が「カレーのにおい!」でした。牛や象が道路を歩き、牛の数が多すぎて車が通れず渋滞することもしばしばあったりと、日本では考えられないような事や発見があり毎日が刺激的でした。

3軒のホストファミリーにお世話になり、そのうち2 軒が整形外科、産婦人科、耳鼻咽喉科のお医者さまのお宅で、手術があるたびに見にきなさいと誘われ、よく見学させていただきました。

現在私は両親と共に家業である整体院で働いており、当時の経験が今に役立とうとは誰も考えもしなかったことでしょう。

ロータリアンの皆様方、ローテックスそして家族の 暖かいサポートがあり、一年を無事過ごすことが出来 ました。この経験こそが今の自分の土台になっている ことを実感しております。有難うございました。

#### 加地恵理子さん

インドに留学(1999.8~2000.7)



1999~2000年、東京八王 子ロータリークラブから交換 留学生としてインドに派遣し て頂きました、加地恵理子で す。高校生という一番多感な時 期に、ロータリーの留学生とし てインドに行った経験は、言葉 で言い表せないほどかけがえ

のないものです。

留学から8年の月日があっという間に過ぎ、今は半 導体の会社で勤務しています。インドとは直接関連の ない日常ですが、この留学経験が、今の私にいつも勇気 をくれます。最初は何も分からない、言葉も通じない環 境でドキドキしながら始めた留学生活。家族同然に迎 えてくれたRCのホストファミリーと沢山の友達に支えられながら過ごした一年は、新しい環境にも物怖じしないで飛び込んでいく勇気をくれます。この経験があれば、どんな環境でも切り抜けていける!という前向きな姿勢でいられるのは、この交換留学があったから。この機会を与えてくださった東京八王子RCに心から感謝しています。

#### 真上 藍さん

タイに留学(2001.4~2002.3)



2001~2002年にタイのナコーンパトム県に派遣していただいた、真上 藍です。現在、アメリカ・カリフォルニア州のモントレー国際大学院で、英語教授法を専攻しています。早いものでタイから帰国して6年が経ちます。実は当初、タイは私

の希望国ではありませんでした。予想外の展開でタイへ留学することになり、一晩中大泣きしたものです。しかし、開き直ってタイへ行ってみると、タイでの生活は一瞬一瞬がとても楽しいものでした。6年経った今も改めて、あの時タイへ行けてよかったと思います。その理由を3つの具体例を挙げてお話したいと思います。

まず、人との出会いとつながりです。私の場合、ホストファミリーは全部で3軒の家族にお世話になりました。他の留学プログラムは、1年間同じホストファミリーにお世話になることが多いですが、ロータリーは3~4ヶ月ごとにホストチェンジをするルールがあります。正直、1番はじめのホストファミリーが右も左もわからない私を受け入れてくれたので、一番印象が強かったのですが、2番目、3番目の家族へまわることがであったのですが、2番目、3番目の家族へまわることがでよって、タイの暮らしを3つの角度から見ることができ、よい勉強になりました。また、学校の先生方には娘のようにかわいがっていただきました。留学後も連絡を取り合って、タイで得た絆を今も大切にしています。

2番目にことばです。タイ語ができるということ、これは私にとって財産です。タイ語は文字がくねくねしているだけでなく、中国語のように声調がありとても苦労しました。しかし苦労の甲斐あって、今でもタイ語を覚えています。タイ語ができるということで、タイ大使館関連のイベントを引き受ける会社で働いた経験もあります。

3番目に若さです。高校生でタイへ行ったということが、私にとって大きいです。高校生の頃はまだ自己が確立しておらず、特に私の場合はタイのことを何も知らずに飛び込んで、1つ1つタイの文化や習慣を「おーなるほど」と楽しみながら学ぶことができたと思います。

あれだけタイへ行くのを嫌がっていた私がタイを好きになり、大学時代は東南アジアを旅しました。これだけ自分に大きな影響を与えてくれた青少年交換プログラムは素晴らしいプログラムだと思いますし、これからも続いていくことを願っています。

## 米山奨学委員会の50年

地区米山奨学委員は、2004(平成15)年からで、5年目である。

委員会の仕事は、わが国ロータリークラブが作った(財)ロータリー 米山記念奨学会に対する事業の支援であり、具体的には、①奨学生の 選考②寄付金集めのお願い③奨学生や学友(いわゆる奨学生のOB)に 対するお世話などである。

2007年6月からの年度(坂本年度)では、増進委員長を仰せつかった。 ロータリークラブの活動は、各クラブによるべきである事を承知で あったが、地区委員も具体的に何らかの寄付増進活動をすべきである と考え、関博子委員長と共に「米山特別功労法人寄付のお願い」を持参 し、大手企業などに協力をお願いした。

- ○寄付金累計額 金4,859万円(地区83クラブ中 8番目)

(2008年6月30日現在)

この年度の寄付金の地区目標は、8,000万円であったが、最終的には、8,397万円となり、全国で2番目の成績であった。

米山奨学事業には、奨学金による経済的支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度があるが、当クラブと会員によるその実績は長い。現在、辛 仁英さんのお世話をしているカウンセラーは中村千晶会員である。

選考テストにおける応募学生の真剣な眼差し、奨学生のクラブおける卓話の好評ぶり、学友の方々のその後の活躍ぶりなどを目の当たりにすると、わが国独自のこの事業を守り続けなければと痛切に感じる。

地区米山奨学委員会委員 杉本 當正

#### ■奨学生、留学生受入送出の動向(年度は受入時、送出時)

#### 米山奨学生

年度	留学期間	名前	国籍	性別	カウンセラー
1974	1975.4~1977.3	陳 徳江	ベトナム	男	内山信次郎会員
					春山 清海会員
1979	1980.4~1981.3	張  耀坤	台湾	男	荒井 末男会員
					恒川 信義会員
1979	1980.4~1982.3	韓 信実	韓国	女	荒井 末男会員
					恒川 信義会員
1980	1981.4~1982.3	蔡 允仁	台湾	男	恒川 信義会員
1982	1983.4~1985.3	黄 自進	台湾	男	大貫 一会員
1984	1985.4~1987.3	金 哲鴻	韓国	男	両角 豊会員
1985	1986.4~1988.3	宗  貴英	韓国	女	豊崎 益夫会員
1986	1987.4~1989.3	葉 正鴻	台湾	男	荒井 末男会員
1991	1992.4~1994.3	シャハリアル・アハメド	バングラディッシュ	男	福田 秀夫会員
1995	1996.4~1998.3	李 美姫	韓国	女	新井 勝良会員
1998	1999.4~2001.3	林 宝燕	マレーシア	女	水落 陽典会員
2000	2001.4~2002.3	金 奎曄	韓国	男	川名 法人会員
2001	2002.4~2003.3	李 炯里	中国	女	堤 吉久会員
2001	2002.4~2004.3	馬大愚	中国	女	池田 恒彦会員
2002	2003.4~2005.3	孫   偉	中国	男	堤 吉久会員
2004	2004.4~2005.3	韓 相熙	韓国	男	重久 三行会員
2005	2005.4~2007.3	李 貞允	韓国	女	斎田 允会員
2008	2008.4~2009.3	辛 仁英	韓国	女	中村 千晶会員

#### クラブ米山奨学生(CY)

年度	留学期間	名前	国籍	性別	カウンセラー
1981	1982.4~1983.3	蔡 允仁	台湾	男	恒川 信義会員
1988		宗 貴英	韓国	女	豊崎 益夫会員

### 米山奨学生からの声

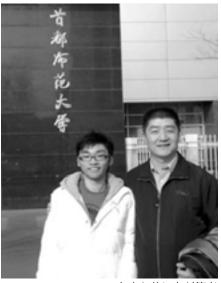
### 奨学生時代の思い出と現在の私

中華人民共和国 首都師範大学 外国語学院日本語学科 孫偉

2007年の夏に日本をあとにして、すでに1年半ぐらい経ちました。ときおり、皆さんと一緒に撮った写真を見たり、八王子ロータリークラブのホームページを開いて皆さんの活躍ぶりを拝見したりして、クラブの皆さんと一緒に過ごした時を懐かしく思っています。

私が米山奨学生になれたのは2003年度からの二年間でした。この2年間の中で、私は経済的援助をいただいただけでなく、皆さんとの交流を通じて日本留学をさらに楽しくさせていただきました。

思えば、愛知万博が開かれていたころ、はじめて 団体旅行のかたちで皆さんと一緒に行動ができ、い つも少人数旅行をしている私にとっては、なにもか も新鮮でした。たしか初日の昼食はあるホテルでと りました。何十人もそれぞれ自分の座布団に座っ て、前に置かれた食事を静かにする光景はいまでも 脳裏に浮かんでいます。広々とした和式レストラン で、円卓を囲むのではなく、整列するように自分に 属する食卓に向かって黙々と食べるという作法に は少し驚きを覚えると同時に、これはおもしろいと も思いました。このような体験ができる外国人はお そらくごくわずかでしょう。これまでも10人以上で 食事をすることがよくありました。ほとんどが飲み 会のようなもので、おしゃべり中心のことが多かっ たです。もちろん、目的などが違うわけがですが、ど れがいいかと評論するつもりはありません。ただ、 これほど秩序正しく、整然とした作法を目の当たり にしたので、すこし考えさせられたのです。これは 団体行動時における民族習慣の違いなのか。それと も「回りに迷惑をかけるまい」という日本人のマ



友人と共に右が筆者

ナー意識が働いているのか。いずれにしても、私は 日本人の礼儀やマナーに関わる授業をするときに は、必ずこの体験を一つの例として挙げ、学生たち に話しています。

米山奨学会にはカウンセラー制度があります。い つから始まったかは分かりませんが、実にいい制度 だと思います。私の場合は、堤吉久さんがカウンセ ラーになって下さいました。知り会ってから、「私た ちの付き合いを奨学生の2年間だけでなく、もっと 長いものにしたい。」と堤さんが言ってくださいま した。私はどちらかと言えば、口数の少ないほうだ と思っています。しかし、この一言がきっかけで、私 も言いたいことを思う存分に言えるようになり、私 たちの多分野にわたる会話も弾むようになりまし た。その後、広島まで連れていただき、原爆ドームや 広島平和記念資料館などを見学することができま した。日本人の戦争に対する認識を理解するには、 どんなにマスコミの宣伝を見ても、いくら本や資料 を読んでも、現地まで足を運び、自分の目で確かめ ることには及ばないと実感しました。カウンセラー 制度があってこそ、八王子RCの皆さんと知り合っ たからこそ、こんなすばらしい思い出が作れたと思

います。

春節休み最後の日である2月1日に、久しぶりに古 い友人たちと会って会食をしました。おしゃべりを 楽しむことはいうまでもありませんが、高校時代の 同級生に「子どもを留学させたいが、留学先として は欧米がいいか、それとも日本がいいか」と聞かれ ました。半年前の私でしたら、即座に「そりゃ日本に 決まっているよ」と答えたでしょう。しかし、今回は 「子どもに何をしてもらいたいのか、子どもが将来 のことをどのように考えているのか」と聞き返し た。その返事を聞いてから、私が欧米と比べながら、 日本留学を分析してあげたのです。こうするのは、 留学するための留学、つまりはっきりした目的を持 たずにとりあえず留学する学生があまりにも増え てきて、外国で真面目に勉強できず、ただ何年間外 国滞在で帰国する学生をたくさん目にしているか らです。

現在の中国の大都市では、留学費用を出せる家庭は徐々に増えています。子どものため、親が必死に頑張っている姿が北京の至るところで目に入ります。一方、大都市の子どもである学生たちも、学校のときはもちろん、社会人になってからも親を頼りにしている傾向もますます顕著になっています。

今年の1月までは、私は1年生の日本語会話授業を 担当していました。1年生であるためか、学生たちは 精一杯努力し、一生懸命話そうとしている姿は私の 原動力になっています。そんなこともあって、言葉 を教えるかたわら、どのように客観的に日本という 国を見ればいいのかなどを、私自身の経験を通して 語っています。私は「大学教育の目的は知識を教え ることを通じて人間を育成することにある」という 信念を持っています。信念を持つことはいいもの の、これを教育活動の中で実践することはなかなか 難しいです。今日の学生たちは一人っ子が多く、小 さい頃から両親ないし祖父母にまで甘やかされて 育っていますので、精神的に弱いというのは彼らの 世代の特徴です。1年生から3年生まで勉強しない で、4年生になってから追加試験を先生にねだる学 生もいれば、外国語学部に入っているにも関わら ず、どうしても口を開こうとしない学生もいます。 先生が厳しい態度で臨めば、すぐ不登校まで落ち込 んでしまい、極端な場合には自殺する子も出てきま す。



先日、他大学の先生と雑談をしたら、こんなこと を話してくれました。試験中に某男子学生が後ろの 学生の答案を覗いて見たところを、先生が注意する つもりでその学生の机を叩いたら、学生が「先生、私 ができるから、教えないでください。」と言っていま した。その返事に先生がビックリしたあまり、唖然 としました。ようするに、あたかも先生が不正行為 をしたので、その学生が拒否して告発することにし ようとしたのです。巡回の教務先生に見られたら、 これは「教学事故」になるに違いありません。もちろ ん、このようなことはめったに発生しないのです が、たとえ噂でもこのような話がありましたら、先 生たちは防衛体勢を構えなくてはやられます。ある 意味、先生と学生は敵対関係にあるという一面も見 られます。やはり人間の育成は最も重要視されるべ きだと思います。

生が教えたものに限らず、自ら関連書籍を買って読んだり日本人留学生と友達になったりして、さらに上を目指している学生が圧倒的に多くいます。2009年の春学期から私が2年生の日本語精読授業を担当すると聞いて、残念がっている学生もいます。私の授業が好きだと勝手に思っています。もしそうであれば、私の授業のどの部分が好かれているだろうと思ったことがあります。授業内容は決まっているから、やはり私は自分の実体験を語ることを通じて、日本語そして日本社会を説いているところではないでしょうか。だとすれば、少なくとも日本語学科の学生たちは本当の日本を真剣に知ろうとしていることになります。このような学生たちのためにも、私は自分の信念を貫きたいと思います。

## 米山奨学生 孫偉君との広島・姫路旅行記録

11月18・19日 米山奨学生の孫偉君を誘って、広島・安芸の宮島・錦帯橋・姫路城巡りをしてきました。

## 広島市平和記念公園にて、平和記念資料館、原爆死没者慰霊碑を見学後、

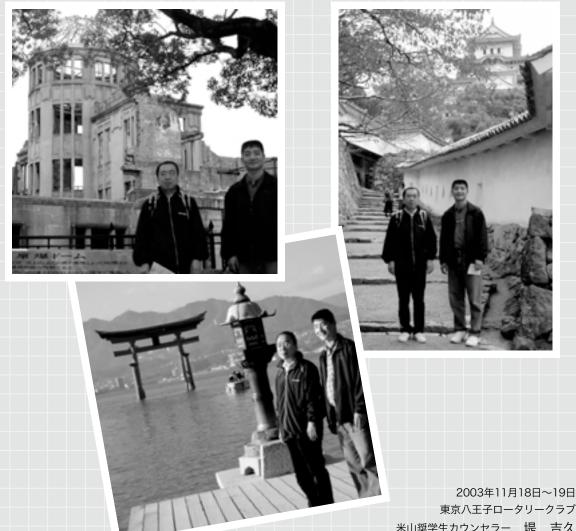
#### 2002年8月開館した国立広島原爆死没者追悼平和記念館を見学した。

次に、子供たちの運動で「世界平和を呼びかけよう」と1958年に建設された原爆の子の像を訪れ、日本各地から 寄せられている千羽鶴を見た。小学生から中高生の学級、その他様々な市民団体などから寄せられる千羽鶴には 「北朝鮮の核」「イラクでの戦争」などに批判を込めた平和を切望する手紙が付されていた。

#### その後錦帯橋、安芸の宮島・厳島神社、姫路城などを見学

今回の旅行移動中、新幹線車内で往復5~6時間、孫君から周恩来、林彪、鄧小平などの評価を聞かせてもらい大 変面白かった。歴史探訪と観光体験・それら歴史認識や体験についての感想を共有できた。

孫君のカウンセラーとして、彼との意思疎通の基礎が多少でも作れた気がします。



東京八王子ロータリークラブ 米山奨学生カウンセラー 堤 吉久

## 同好会の50年

## 50周年を迎えてのゴルフ同好会 東京八王子ロータリークラブのゴルフについて

豊泉皖嗣

私がロータリーに入会した当時は、最近と違いロータリークラブとしてのゴルフが盛んに行われていました。クラブとして年間4回のコンペを開いており、参加者も毎回20人以上でした。

私も大変ゴルフが好きでしたので、入会後すぐにゴルフ会の幹事役を仰せ付けられ大変苦労しました。

皆様一国一城の主ばかりでゴルフ会を終了するまでの苦労は大変なものでした。2750地区や南分区のゴルフ等の対外コンペも毎年の様に開催され、遠方まで試合に行った事が思い出されます。

ゴルフの好きな会長の年と、嫌いな会長の年ではコンペの数も質も違い、幹事として振り返ってみると、い ろいろな事が走馬灯の如く頭をよぎります。

21世紀になってきて、ゴルフ同好会メンバーの年齢が上がってきて、だんだんコンペのメンバーを集めるのが大変になってきてしまい、最近では10~15名位で年1~2回のコンペを開いている様です。

最近の若いロータリアンはあまりゴルフに興味を 示さず、寂しい限りです。

東京八王子ロータリークラブより一番近くて一番 古いカントリークラブである八王子カントリークラ ブも、同じ50周年を来年迎える事ですので、当クラブ も満50周年を迎えるに当たり、皆、老け込まずに少し は運動して若さを取り戻しましょう。



2007-8年度ゴルフ会 八王子CCにて

### 日本ロータリーハムクラブ JF1ZZZ

#### ROAR-JAPAN (Rotarians Of Amateur Radio-JAPAN)

佐藤雅章(JK1JDT)

国際ロータリークラブの中に親睦活動グループがあり、その中の一つにアマチュア無線クラブ「ROAR」 Rotarians Of Amateur Radioがあります。ROAR-JAPANは1978年に開設され、日本のアマチュア無線従事者免許を持つロータリアンで構成されています。

年1回全国各地持ち回りで「総会」と、地域ごとの「アイポールミーティング」等が開催されています。2006年

には故重久会員(JJ1KTZ)が会 長となり、八王子にて「桑都総会」 が行われました。

また、日曜・祝日を除く毎朝7時 30分から8時15分まで7,0775 MHZにて「電波例会」を行ってお り、既に9,130回(2009年5月末) となりました。

是非、沢山の方の入会をお待ち しています。





2006ロータリーハムクラブ桑都総会にて

## ┃ロータリー囲碁同好会(GPFR)と ┃八王子囲碁ロータリークラブについて

関田榮治

ロータリー囲碁同好会(Go Playing Fellowship of Rotarians)は、平成12年8月に、日本で初めて、RI公認の 親睦団体として、発足しました。

日本支部は、日本将棋連盟元会長の二上達也氏(東京RC)を支部長(平成21年7月より、立川こぶしRCの新藤信之氏が支部長の予定)に、日本全国の囲碁愛好家のロータリアンが、碁盤を通じて交流を図る、全国的な会です。GPFRは韓国、台湾にも支部を持つ国際親睦グループ(国際奉仕活動)で、毎年春に日本、韓国、台湾の順に持回りで国際大会を開催しており、平成15年より、この国際大会のアピールを目的として、毎年秋(第2回大会以降)に国内での全国囲碁大会が、市ヶ谷の日本棋院会館で行われており、紆余曲折があったようですが、ルールは上級者(五段以上)、中級者(三段~四段)、初級者(二段以下)の3クラス制の早碁戦(上級者は時計使用)で行われ、上級者はスクラッチ、他はハンデ戦となっており、個人戦のほか、各クラブの上位者2人の成績による、クラブ対抗戦(団体戦)を行っています。

第1回大会は平成15年2月16日~17日の両日、日本全国から184人が参加し、初の「ロータリー囲碁名人」を 競い、熱戦が展開されたと聞きましたが、平成20年11月29日に行われた第7回大会は、南は山口・長門、北は苫 小牧北から、女性2名を含めて85人が参加し、熱戦が行われました。

当クラブでは、第1回~第4回大会までは重久三行氏(故人:日本支部常任委員)が、参加していたようですが、第5回大会以降からは、平谷敬一郎(第6回は欠席)氏、中川淳之助(日本支部常任委員)氏と私の3人が参加し、団体戦では3年連続で優勝しております。個人戦でも第5回大会で中川氏が3位、第7回大会で私が4位(第6回大会では、じゃんけんで負けて私が入賞を逃す)と健闘しております。

次に、八王子囲碁ロータリークラブ(代表平谷敬一郎氏)ですが、市内の囲碁愛好家のロータリアンが、毎月第3水曜日の午後1時30分から、エルシイの3階で、NHK等の囲碁番組の司会で有名な、稲葉禄子さんを、講師としてお迎えし、毎回10人前後の人が指導碁を受けております。

当クラブからも、右田徹氏、平谷氏、中川氏、西仲徳次氏と私が参加し、熱戦を繰り広げております。又、年2回行われる、納涼会や、忘年会では、例会の倍近くの人が参加し、囲碁談義に花を咲かせております。





平成19年度、平成20年度優勝盾



練習会でのひとこま



平成20年度全国囲碁大会表彰式にて 前列左から二人目が中川会員

### 東京八王子ロータリークラブ写真同好会

須佐美康治

平成5年(1993年)の12月に、八王子ロータリークラブ 有志による第1回写真展が八日町のNTTポピンズにて開 催された。出展者は20名を数え、作品数は79点に上った。 とは言っても、当時未だ写真同好会といったまとまりは なく、写真を趣味とするメンバーが集まっての写真展開 催であった。しかし、当時小唄、ゴルフ、囲碁など、サーク ル活動、つまり趣味の会をクラブで作る機運が高まり、写 真同好会が結成された。

以来、写真展は今年で16回を重ねるに至った。会場も 第1回の八日町ポピンズを皮切りに、東京電力ホール、中 央信託銀行、京王プラザホテル等場所を変えて行われて 来たが、最近は東急スクエア11階で毎年開催されてい る。

また、高尾山(1994年)、谷川岳一の倉沢(1997年)、奥 秩父(2002年)、八ヶ岳山麓(2003年)、後楽園(2004年)、 昭和記念公園(2007年)、神代植物公園と深大寺(2008年)等で撮影会が行われた。

研修会としては、荻島孝之会員を講師に「写真基本講座」を開催、「レンズの口径と絞り、露出の関係」についてのお話を伺った。これはカメラのメカニズムの話だが、写真撮影の最も基本で、初心者からベテランまで撮影時にはいつも頭から離すことの出来ない事柄であり、大変有意義であった。このことはデジタルカメラでもまったく同じである。さらに、写真家桜井始氏による会員品評会を4回ほど行い、持ち寄った会員作品一枚一枚に批評を受けた。

年末家族懇親会に同好会会員の写真作品を展示した ことも何度かあった。

1995年あたりからはデジタル旋風が巻き起こり、あくまでフィルムカメラで撮影を続ける会員、いち早くデジタルカメラに移行する会員に分かれたが、写真を撮るということの目的は同じで、それぞれ尊重しながら楽しんでいる。





2005年写真展



2007年撮影会 昭和記念公園

展覧会では、フィルムカメラで撮影しても、プリントはデジタルでという人が多くなり、半数を超えたようだ。

写真同好会はこれからも一人でも多くの会員の方に気楽に参加していただき、親睦を深め、ロータリーライフをより一層楽しんでいただくよう努力して行きたいと思っている。

### 通風の会雑感

宮原隆夫

1996年の5月、平田年度で幹事をおおせつかって1年間無事に勤めさせていただき、年度最後のクラブ協議会を箱根湯本の河鹿荘で楽しく打ち上げました。

翌日は恒例のゴルフで幹事という役目柄、沢山ハンデをもらって参加しました。

その日は余計な力と筋肉を使ったせいか、なんとなく右足の親指付近に違和感を覚えながら帰宅、入浴して 疲れを取り就寝するとともに違和感を覚えていた右足がしくしくと痛み出し、とても眠るどころではない痛 さになりました。

経験のある方ならもうお分かりだと思いすが、とうとう痛風の発作が起きてしまいました。

それまでも、成人病検査で尿酸値の高さを指摘されていましたが、特に対処もしないまま過ごしていたのが アウト!

クラブの例会に出席してその話をすると、さすがにロータリアン、隠れ痛風経験者や予備軍が思いのほか多く「一緒に渡れば怖くない」の心境で薬も飲まずそのままでいました。そして2年ほど過ぎた時、今度は左足に発作が起き、それからはいよいよ薬のお世話になるようになりました。

そんな経緯で過ごしているうち、それならいっそのこと年に1回か2回、思いっきりアルコールを飲み、プリン体も意識をしないで美味いものを食べる集まりをしようと土屋勝先輩に会長になっていただき、右田先生を顧問に迎えて始めたのがこの会でした。

はじめは痛風予備軍を含めた人の集まりでしたが、会を重ねるごとに参加者が披露する小唄や三味線、踊りに混じって会員一人一人が考えているロータリーのことなど、いろいろな話が飛び出して肩の凝らない大変楽しい会になって来ました。

名称も、はじめはそのものずばりの痛風(痛い)の会でしたが途中から通風(風通しの良い)の会へと変わって多くの会員が参加する様になりました。

現在、回を重ねて13回を数え、例会とはまた違った雰囲気の中で、ロータリーの柱である親睦を堪能しています。

特に会費もなく「来るもの拒まず、去るもの追わず」の自由な形のこの会がクラブの活性化に貢献できれば と感じています。



最近の会での一こま



芸達者が次々と芸を披露